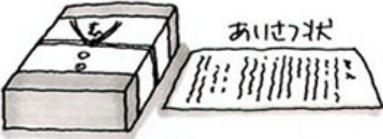


「後返し」について I

- 「後返し」が必要な方々
- 葬儀後に送られる「後返し」
- 北海道と本州の香典返しの違い
- 後返しの時期

あと返しについて I

気持ちで伝える「後返し」は四十九日に挨拶状を添えて贈りましょう

<p>「後返し」が必要な方々</p>	<p>本州では香典をいただいた方全員を対象としているのに対し、道内では対象が絞られているようです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 葬儀ご出席できず、香典をいただいた方 (遠方、本州方面の方々) 2) 本州、遠方からわざわざ会葬していただいた方 (親類、親しい知人、友人) 3) 過分な香典をいただいた方 4) 生前お世話になった方 (葬儀のときお世話になった方々を含む) <p>あいさつ回りを終え、一段落したら香典、供物帳を参考に「後返し」が必要な方々のリスト作成をお勧めします。手帳は名前・住所・電話番号・郵便番号・故人との関係・香典額・お返し金額・お返し品の候補を用紙にまとめ、発送が完了したらチェックしておくとお便利です。</p>								
<p>葬儀後に送られる「後返し」</p> 	<p>会葬していただいた方への香典返しは、葬儀当日に「即返し」として終了されているかと思いますが、過分な香典をいただいた方や遠方から会葬していただいた方には、後日、「後返し」として品物に挨拶状を添えて贈るのがマナーです。喪主が直接届ける場合もありますが、遠方の方には宅配便などで届けているのが一般的です</p>								
<p>北海道と本州の香典返しの違い</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">地域</th> <th colspan="2">香典返し</th> </tr> <tr> <th>即返し</th> <th>後返し</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>北海道</td> <td>通夜返し 北海道では一般に香典返しと呼んでいます</td> <td>一部の方に半返しから3分の1返し</td> </tr> </tbody> </table>	地域	香典返し		即返し	後返し	北海道	通夜返し 北海道では一般に香典返しと呼んでいます	一部の方に半返しから3分の1返し
地域	香典返し								
	即返し	後返し							
北海道	通夜返し 北海道では一般に香典返しと呼んでいます	一部の方に半返しから3分の1返し							

	本州	通夜返し	全員に香典の半分が目安、本州では一部地域を除き、四十九日に届けるお返しを香典返しと呼んでいます。
後返しの時期	 <p>本州では七七日（四十九日）の忌明け法要を営んだあと、滞りなく葬儀を済ませ、忌明けを迎えることができたという挨拶状を添えて贈りますが、道内では四十九日の法要を告別式に繰り上げて行うことが多く、「後返し」の準備ができ次第贈られているようです。挨拶状を添え、表書きは「志」が一般的で水引の下には「〇〇家」と書きます。神式の場合、忌明けに相当する五十日祭（三十日祭の場合もあり）、キリスト教の場合、カトリックは仏式に準じ、プロテスタントは1カ月後の昇天記念日に、どちらも挨拶状を添えて贈られている方が多いようです。</p>		

「後返し」についてⅡ

- 「後返し」のめやす
- 「後返し」のお品選び
- 忌中引出物と後返しの違い
- 法要と後返しの時期

あと返しについてⅡ 気持ちで伝える「後返し」は四十九日に挨拶状を添えて贈りましょう

「後返し」のめやす	「香典半返し」という言葉を聞いたことがあると思いますが、香典には不時の出費の相互扶助の意味があることから、必ずしも半返しをする必要はありません。実際には半返しから3分の1返しが一般的です。
「後返し」のお品選び	「半返し」のお品選びのコツは実用性を重視することです。具体的にはタオルやシーツなどの装身具や海苔やお茶など日持ちの良い食品などに人気があるようです。また、香典を「従業員一同」「〇〇会一同」といった連名でもらった場合、各人にではなく一つにまとめて連名宛にし、コーヒーセットなど皆で利用できるものを選ぶとよいでしょう。別冊商品カタログ「ふれあいギフト」をご利用下さい。
忌中引出物と後返しの違い	札幌圏では、告別式の日には精進落しの膳が並べられ「忌中引」が行われます。また地域によっては箱詰めのお土産（食料品や酒、ジュース類の詰合せ）、あるいは折詰めと引出物が手渡されて会食の席を設けないところも増えています。これは葬儀のお手伝いをいただいた方、葬儀委員長や世話役の方々の労をねぎらいお礼するもので、この時に引出物や、供物のお下がり配るのは、「後返し」とは異なります。

法要と後返しの時期

仏式		神式		キリスト式	
法要		霊祭		追悼ミサ・記念式	
通夜	●道内では香典返しを渡します	前夜祭		カトリック	
告別式	●道内では四十九日までの法要を繰り返して営む風習がありますので、7日目ごとの法要は身内で済ませる方もいます。	葬場祭		前夜祭	
初七日 (7日目)	●あいさつ回り、遺品の整理・処分、香典・供物帳の整理。	十日祭	●仏式の初日にあたります	追悼ミサ	
二七日 (14日目)	●後返しリスト作成。この頃から発送します。	二十日祭	●身内だけで霊祭を行う方もいます。	三日目のミサ	●身内と親しい方で行う方が多いようです
三七日 (21日目)		四十日祭		七日目のミサ	
四七日 (28日目)	●生命保険の手帳、遺族年金手続き、健康保険埋葬料手続、遺産相続 ●生命保険の手帳、遺族年金手続き、健康保険埋葬料手続、遺産相続	五十日祭	●「後返し」発送。仏式の忌明けにあたります。	一ヶ月目のミサ	●「後返し」の発送。仏式の忌明けにあたります。
五七日 (35日目)	●お位牌の準備、ご仏壇の準備	一年祭			
六七日 (42日目)	●納骨準備 ●本州では三十五日、四十九日の忌明けをめぐりに「後返し」の発送をします。	二年祭		プロテスタント	
				記念式	
七七日 (49日目)	●納骨・埋骨される方が多いようです。	三年祭		七日目の記念式	●身内と親しい方で行う方が多いようです。
百か日 (100日目)	●身内で行う方が多いようです。			10日目の記念式	
一周忌 (満1年目)	●盛大に行う方が多いようです。			30日目の 召天記念式	●「後返し」はこの日以降に行います。
三回忌 (満2年目)	●亡くなった年を1年目と数えますので、一周忌の翌年が3回忌となります。				

※ () 内は死亡日を加えた日数です。